

第4回 国有林モニターアンケート

結果概要

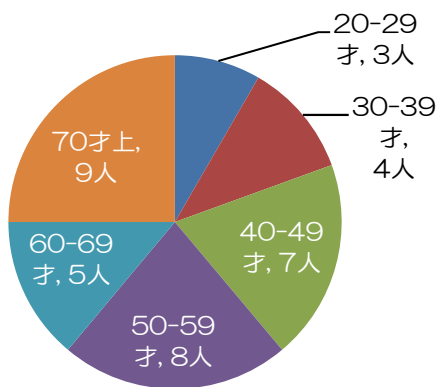
国有林モニター制度は、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、広く一般から国有林モニターを募り、国有林野事業についての理解を深めていただくと同時に、国有林野事業についての幅広いご意見等をいただき、これらのご意見を管理経営に役立てることで、「開かれた国有林」にふさわしい管理経営を行うことを目的としています。

今回、第4回国有林モニターアンケートを実施し、国有林モニター36名中32名の方からご回答をいただきましたので、その結果について報告します。

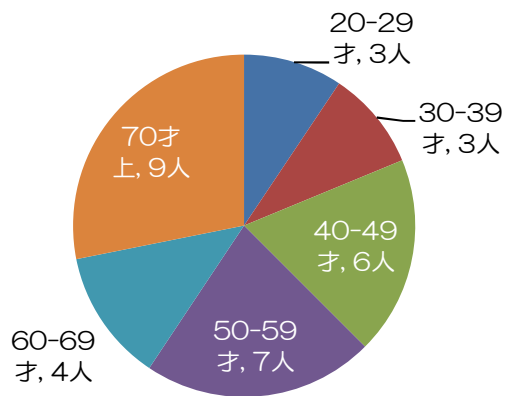
平成25年8月

国有林モニター基本情報

〈年齢層別割合〉

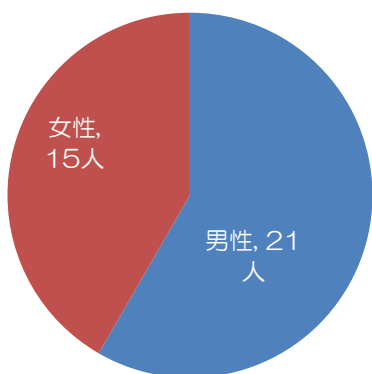


国有林モニター (36人)

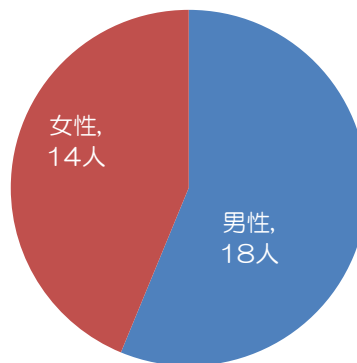


第4回アンケート回答者(32人)

〈男女別割合〉

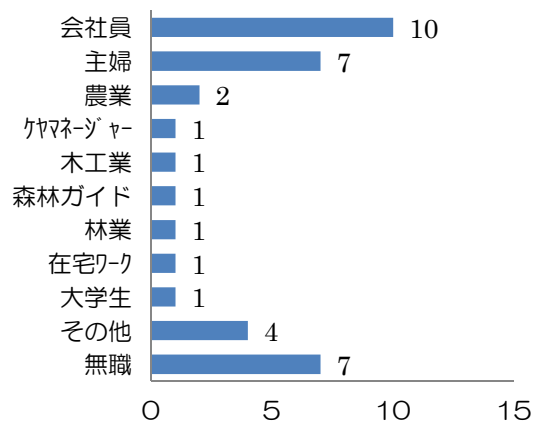


国有林モニター (36人)

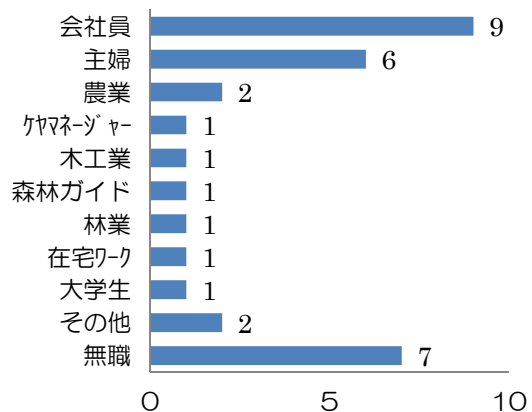


第4回アンケート回答者 (32人)

〈職業〉



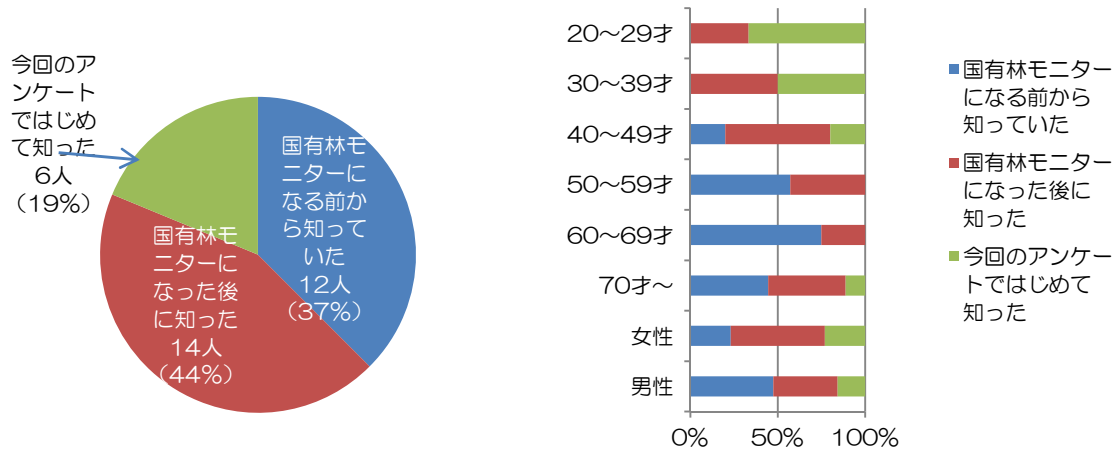
国有林モニター (36人)



第4回アンケート回答者(32人)

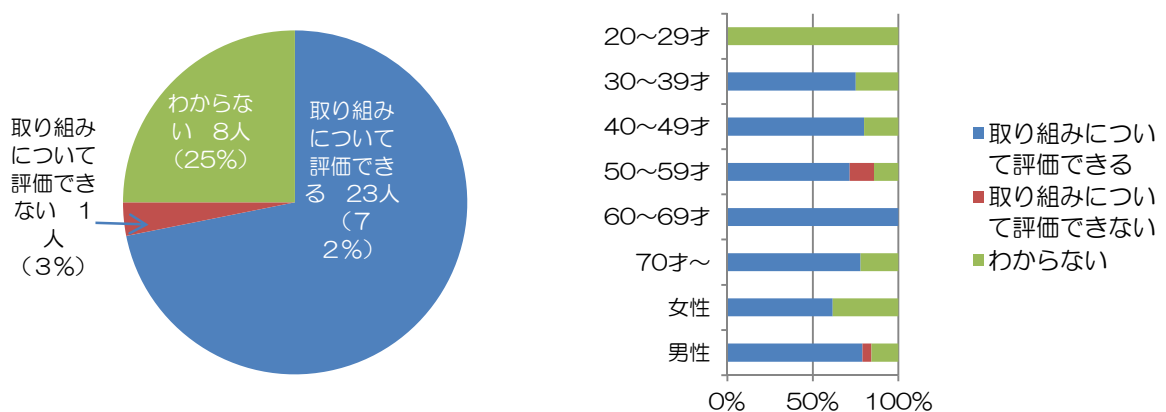
生物多様性保全について

問1 中部森林管理局が生物多様性の保全に取り組んでいることを知っていましたか。



(結果) 中部森林管理局の生物多様性の保全に対する取組について最も多かった回答は、「国有林モニターになってから知った」14人(44%)でした。性別でみると男性が、「国有林モニターになる前から知っていた」9人(47%)。女性は、「国有林モニターになった後知った」7人(54%)でした。また、年代別で多かった回答は、60代では、「国有林モニターになる前から知っていた」が回答総数4人中3人(75%)。40代では「国有林モニターになった後知った」が回答総数5人中3人(60%)。20代では、「今回のアンケートで知った」が回答総数3人中2人(67%)でした。

問2 中部森林管理局が実施している生物多様性の保全の取組についてお聞きします。



(結果) 中部森林管理局の生物多様性の保全に対する取組について多かった回答は、「評価できる」が23人(72%)でした。性別でみると男性では、「評価できる」が回答総数19人中15人(79%)、女性も同様に回答総数13人中8人(62%)でした。また、年代別で多かった回答は、60代では、「評価ができる」が回答総数4人中4人(100%)。20代では、「わからない」が、回答総数3人中3人(100%)でした。

なお、「評価ができる」とした理由として次のようなものが挙げられました。

・森林の豊かさは生物多様性のバロメーターと思う。森林管理局がその保全に取り組むことはいいことだ。

・緑の回廊。守らなきゃいけないから。

・中部森林管理局が保全に取り組まなかったら自然は失われていくだろうと思う。

・地球規模で見ると毎日多くの種が絶滅していると聞いている。種を保全する取り組みが大切です。

・人間の生活の可動範囲が急速に拡大したここ 100 年ばかりの間に自然の破壊が進みましたので、保全の取組はとても有意義なことだと思っています。

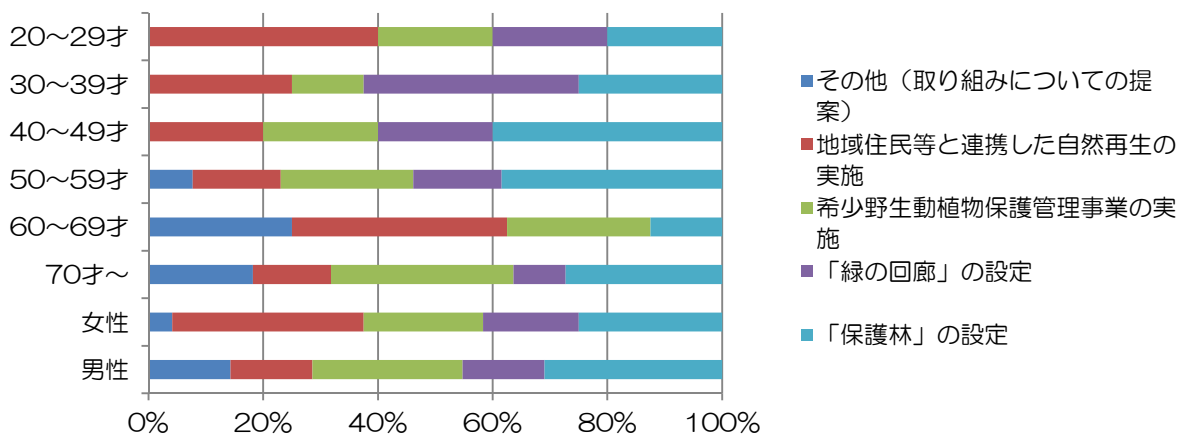
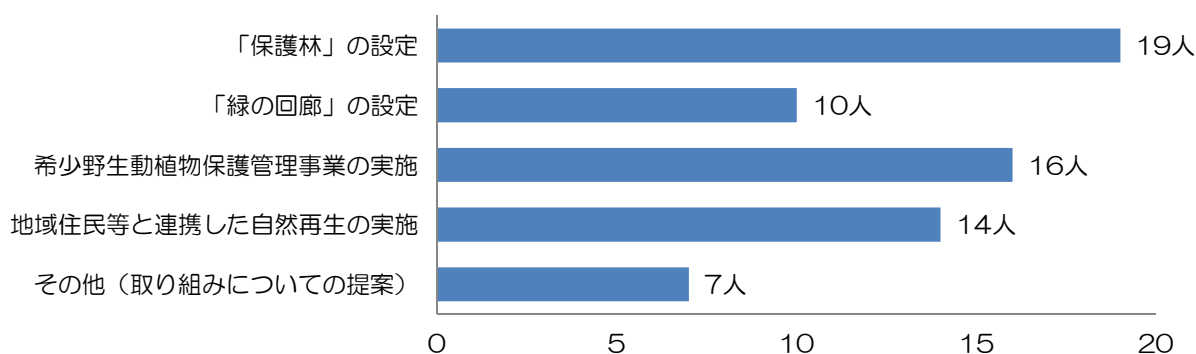
・生物多様性の保全への配慮ありがたい。今後も末永く取り組んで欲しい。保全を阻害する帰化動植物へは一層の努力をお願いしたい。

・よくはわからないが、かけがえのない自然を守っていくには、永遠に守る大切さが大切だと思います。

なお、取り組みについて「評価できない」の回答は、1 人（3%）でした。「評価できない」とした理由は、次のとおりです。

・自然環境の保護の取り組みの評価は、1 年単位ではできない。

問 3 今後、生物多様性の保全に対する中部森林管理局の取組の中で、継続して実施してほしい取組がありましたら、次の中から 2 つ選んでください。



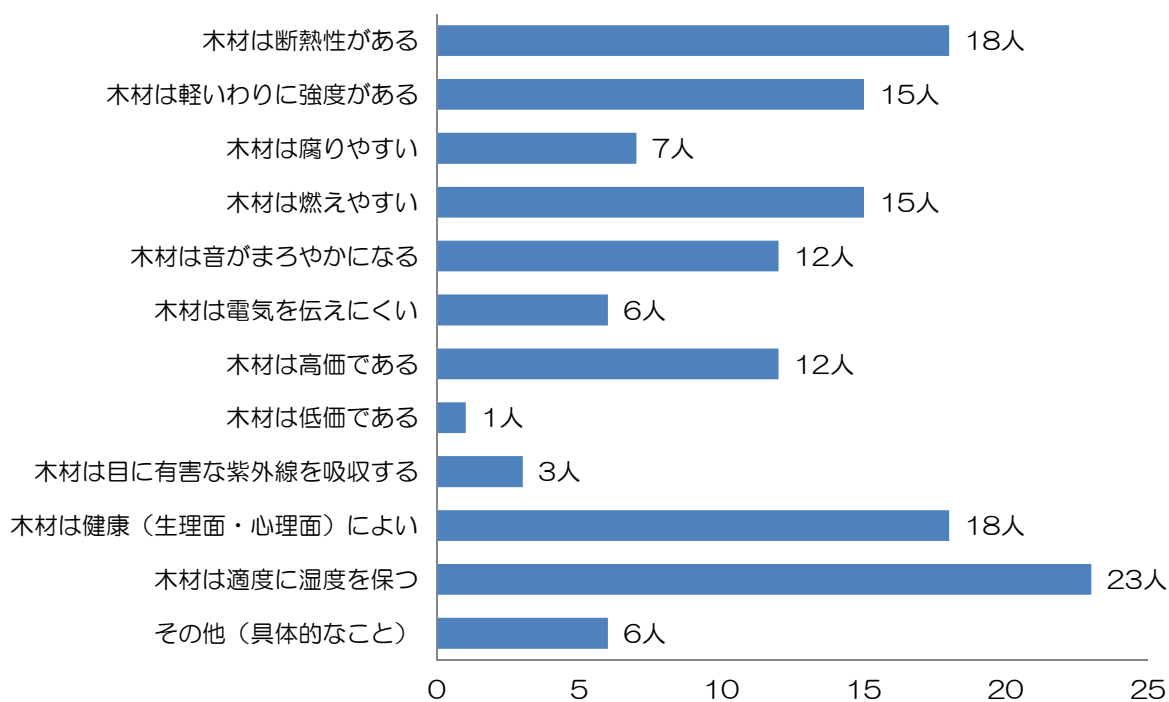
(結果) 生物多様性の保全に対する中部森林管理局の取組の中で継続して実施してほしいとの回答が最も多かったのは、「貴重な森林生態系を厳正に保全管理するための『保護林』の設定」で回答総数66人中19人(29%)でした。性別で見ると、男性では、「貴重な森林生態系を厳正に保全管理するための『保護林』の設定」が、回答総数42人中13人(31%)。女性では、「地域住民等と連携した自然再生の実施」が、回答総数24人中8人(33%)でした。また、年代別で多かった回答は、70代以上では、「希少野生動物保護管理事業の実施」が回答総数22人中7人(32%)。40代では、「貴重な森林生態系を厳正に保全管理するための『保護林』の設定」が回答総数10人中4人(40%)でした。

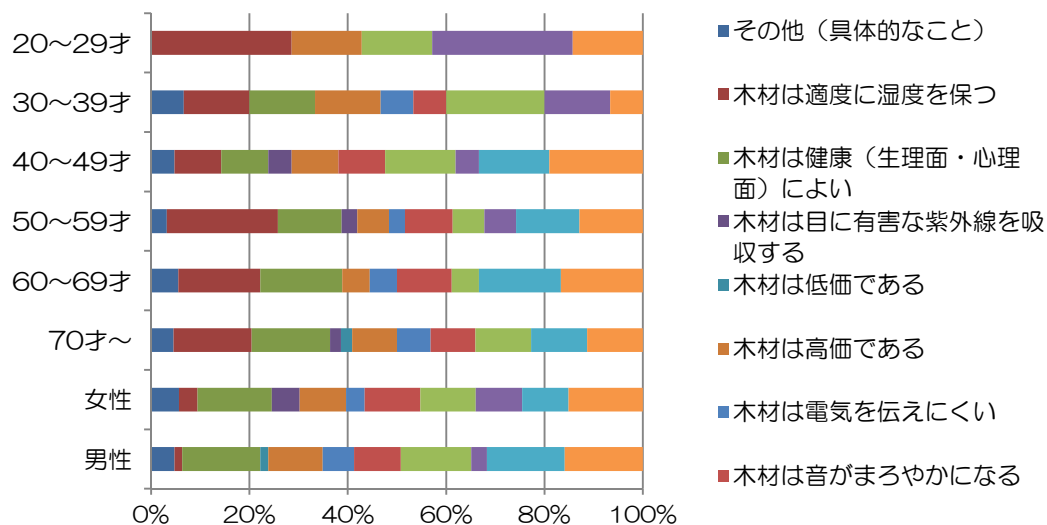
なお、その他の取組に対する主な提案は、次のとおりです。

- ・自然林として残して欲しい。
- ・隣接する県、県内民有林との関連、NPO・地域住民との連携は生物多様性の保全に益々肝要になってくると思われます。
- ・一般市民の方の参加がまだ少ないと思います。多くの方に知ってもらったり、参加を期待します。

木材利用の推進について

問4 国有林モニターの皆様の木材の性質に対する印象についてお聞きします。次の中から選んでください。





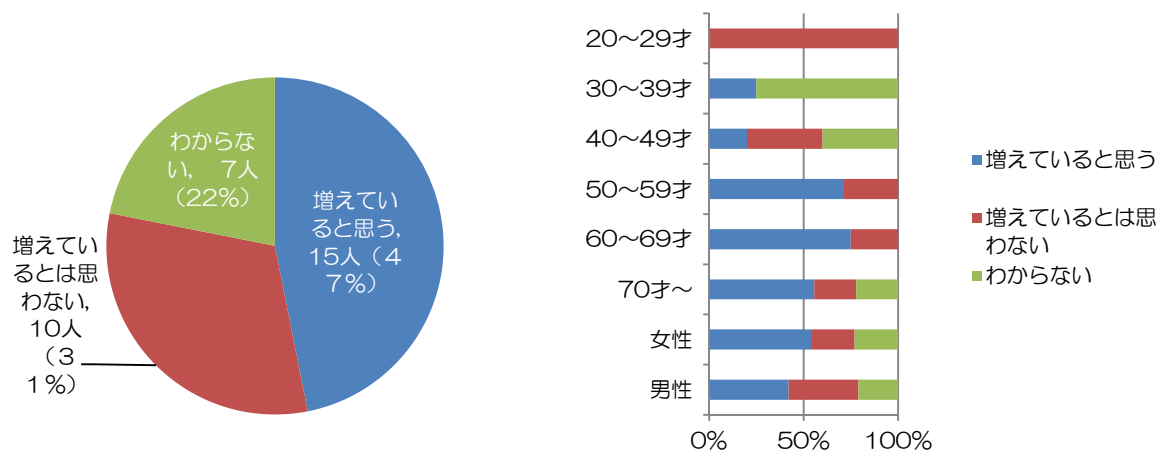
(結果) 国有林モニターの木材の性質に対する印象が多かった回答は、「木材は適度に湿度を保つ」が回答総数110人中23人(21%)でした。性別で見ると、男性は、「木材は断熱性がある」「木材は健康によい」「木材は軽いわりに強度がある」が回答総数60人中それぞれ10人(17%)でした。女性は、「木材は断熱性がある」「木材は健康によい」が回答総数50人中それぞれ8人(16%)でした。

また、年代別で多かった回答は、70代以上では、「木材は適度に湿度を保つ」「木材は断熱性がある」が回答総数42人中それぞれ7人(17%)。50代では、「木材は適度に湿度を保つ」が回答総数30人中7人(23%)でした。

なお、その他具体的な木材の性質に対する具体的な印象として提案された主なことは、次のとおりです。

- ・木の香り
- ・材質が精神的な慰安をもたらす効果
- ・生命を感じる

問5 最近、身の回りで木材を積極的に利用されていることが増えてきていると思われますか。



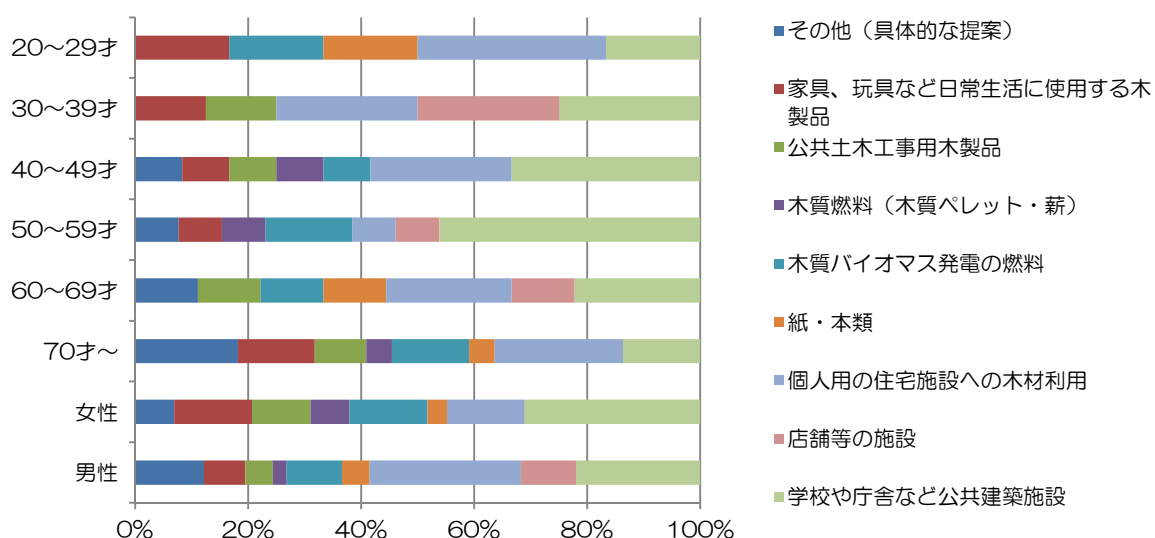
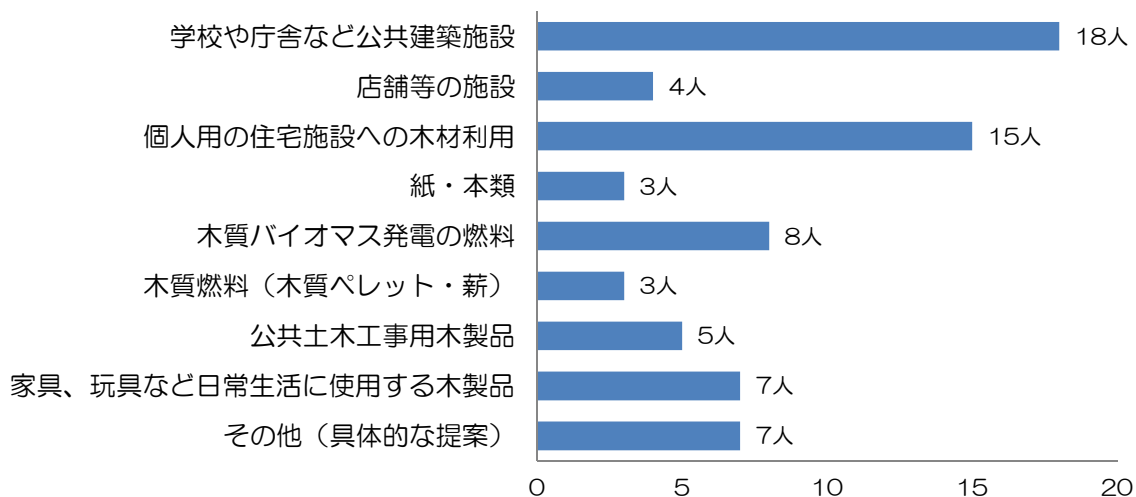
(結果) 最近、身の回りで木材を積極的に利用されていることが増えてきているかについて聞いたところ多かった回答は「増えていると思う」が15人(47%)でした。性別で見ると、男性は、「増えていると思う」が19人中8人(42%)。女性は、「増えていると思う」が13人中7人(54%)でした。

また、年代別で多かった回答は、20代では、「増えているとは思わない」が回答総数3人中3人(100%)。30代では、「わからない」が回答総数4人中3人(75%)でした。

また、増えていると思うと回答された方が印象に残った主な利用方法は、次のとおりです。

- ・ 小学校、保育園や駅など公共施設の木材使用(仕様)が増えていると感じる。
- ・ 内装材や仕切変更等で柱や板を使用している。耐震にもタルキ等を導入している。
- ・ 木製品をコンセプトにした店舗が見られるようになった。名刺入れや急須が売られていた。
- ・ 暖房として薪ストーブの家庭が増えている。
- ・ カラマツ材と現地産の玉石利用の、小型の谷止工
- ・ 公共建築物の木材利用(特に小中学校の体育館)、治山事業と谷止工、ストーブに利用する材料(薪)
- ・ 「木造家屋に住もう」キャンペーンが増加。百貨店で木の玩具が目につく
- ・ 耐火集成材による大規模複合商業施設の実現など。
- ・ 身近に使う台所用品などが増えていると思います。

問6 今後、どの分野で木材の積極的な利用が行われたら良いと思いますか。次の中から2つ選んでください。



(結果) 今後、どの分野で木材の積極的な利用が行われたら良いとの回答が多かったのは、「学校や庁舎など公共建築施設」が回答総数70人中18人(26%)でした。性別で見ると、男性は、「個人の住宅施設への木材利用」が回答総数41人中11人(27%)。女性では、「学校や庁舎など公共建築施設」が回答総数29人中9人(31%)でした。また、年代別で多かった回答は、50代では、「学校や庁舎など公共建築施設」が回答総数13人中6人(46%)でした。

また、その他の具体的な主な提案は、次のとおりです。

- ・長野県はどの県よりも住宅、公共物に木材が使用されることを願う
- ・塩尻市片丘のバイオマス発電の活用法、熱利用、農業利用での水の確保、温浴施設配管等のコストの問題、木製サッシとアルミの複合サッシの普及。
- ・個人住宅に木材を使うのは理想だが、乾燥などの競争力に耐えられないのではないかな。

すべてを国産材でまかなうには、集成材の活用が必要。

- ・医薬品とか食料品等に利用できないだろうか。
- ・病院内、特に病室への利用拡大。
- ・学校の校舎に使って欲しいです。

問7 ご意見ご要望など（一部抜粋）

・モニターになって知ったことが多い。多くの国民に知らせる努力をしてほしい（保護林の現状など）

・中部森林管理局の取組は真摯ですばらしいと思います。今後、ホームページやいただく冊子で理解を深め勉強していきたいと思います。

・3.11以降、環境に対する日本人の考え方が変化していると思われる。林野庁や森林管理局の取り組みがあってこそ、意識の変化がもたらされている。私達の森林に対する理解や、可能なら作業の方向付けをしていただければ協力をしていきたいと思います。

・コンテナ苗による省力化等利点も多いので国有林はもちろん民有林等にも勤めて苗木価格のコストを抑えられれば普及も早まるのではないだろうか。木曽上松等で試行錯誤されているヒノキオイル（入浴剤）の商品化等。

・生物多様性保全の取り組みは末長い目での効果や評価をお願いしたい。生物多様性保全の諸活動の内容を一般社会に広く知らせる努力が欠けていると思います。

・木材の積極的な利用は公共建築施設には確かに利用されています。個人用の住宅等で国産材の利用が少ない。外材ではなく国産材を利用する方法をもっともっと提案していただきたい。

・これからも自然を守っていく必要がある。個人でも何かちょっとしたことからできることがあるならばそこから始め、守り受け継いでいける状況でありたいと思う。

・国有林をもっと活用できる施策がほしい。利益を育む手段・方法はないものだろうか。

・治山事業はセメント、石、砂を利用するというイメージですが、資料で木材の利用が多いことを知りました。工事コストの縮減とありましたが「腐りやすい」と思いますが、長年のトータルとしてコスト縮減に繋がるのですか？

・2010年に開催された生物多様性条約国際会議で採択された“愛知ターゲット”を契機として取組を始めた施策は何かありますか？

・局の取り組みを学ぶツアーがあると人々の関心も高くなるのではないのでしょうか。

・自然保護の取り組みに関する中部森林管理局と地元市町村との連携がどのように実施されているか知りたい。

・名古屋シティフォレスターの一員として15年あまり中部国有林のいろいろな地域で作業に参加してきました。全く縁のなかった国有林を多少でも身近に感じることができました。今年度で名古屋シティフォレスター事業を廃止されることはとても残念に思います。

まとめ

今回のアンケートでは、生物多様性の保全に対する取組、木材利用の推進について幅広いご意見をいただきました。

生物多様性の保全に対する取組には、国有林モニターになる以前から知っていた方が多く、中部森林管理局の取組みについて「評価ができる」とした回答が多く寄せられました。評価できるとした理由には、生物多様性保全の取組は重要であると認識されている方が多いことが分かりました。

また、木材利用の推進については、木材の性質に対する印象について「木材は、適度に湿度を保つ」等、木材の性質に対して良い印象を国有林モニターの皆様が持たれているということが分かりました。木材の積極的利用が増えているかについては、国有林モニターの3割の方が「思わない」と回答され、若い人ほど「思わない」とされる傾向が高いことが分かりました。木材を積極的に利用すると良いものとしては、公共建築施設、個人用住宅の回答が多く、木材利用を建物建設用と考えている方が多いことが分かりました。

さらに、モニターの皆様からは、中部森林管理局が生物多様性保全に取り組んでほしいという意見・要望を多くいただきました。

中部森林管理局では、引き続き中部森林管理局の取組等に理解を深めていただけるよう宣伝・広報等に努めるとともに、今後も皆様からのご意見の把握に努め、皆様の貴重なご意見を参考にしながら、業務の改善を進めて参ります。